

〔題名〕

Systemic Gemcitabine Combined with Hepatic Arterial Infusion Chemotherapy with Cisplatin, 5-fluorouracil, and Isovornin for the Treatment of Advanced Intrahepatic Cholangiocarcinoma: A Pilot Study

(切除不能進行肝内胆管癌に対する塩酸ゲムシタビン併用肝動注化学療法: 予備的研究)

〔要旨〕

肝内胆管細胞癌Intrahepatic cholangiocarcinoma (ICC)は、予後不良であり、通常進行癌として発見されることが多い。肝動注化学療法 Hepatic arterial infusion chemotherapy (HAIC)は進行肝細胞癌Hepatocellular carcinoma (HCC)に対して有用であるが、ICCに対して肝動注化学療法を行った報告も散見される。

今回、進行ICCに対して塩酸ゲムシタビン全身投与を併用したHAIC(low dose FP+ Isovornin)の有用性を検討したので報告する。

進行ICCと診断され、塩酸ゲムシタビン併用肝動注化学療法(low dose FP+ Isovornin)を施行した進行ICC7例を対象とした。1クール後の奏効率は57.1%(部分奏功(PR)4例、不変(SD)2例、進行(PD)1例)であった。累積生存率は1年、2年がそれぞれ85.7%、28.6%で、生存期間中央値(MST)は22.3ヶ月であった。副作用としてはCTCAE Grade3、4の白血球減少・好中球減少・血小板減少・貧血・食欲低下がそれぞれ28.6%・28.6%・42.9%・14.3%・14.3%認められたが、死亡に関連した重篤な有害事象は経験しなかった。

予備的研究ではあるが、切除不能進行ICCに対して塩酸ゲムシタビン併用肝動注化学療法(low dose FP+ isovornin)は、有用な治療法となりうると考えた。

作成要領

1. 要旨は、日本語で800字以内、1枚でまとめること。
2. 題名は、和訳を括弧書きで記載すること。

学位論文審査の結果の要旨

医学系研究科応用分子生命科学系 (医学系)

報告番号	甲 第 1408 号	氏 名	丸本 美穂
論文審査担当者	主査教授 田 邊 剛		
	副査教授 山崎 隆弘		
	副査教授 坂本 功		
学位論文題目名 (題目名が英文の場合は、行を変えて和訳を括弧書きで記載する。) Systemic Gemcitabine Combined with Hepatic Arterial Infusion Chemotherapy with Cisplatin, 5-fluorouracil, and Isovorin for the Treatment of Advanced Intrahepatic Cholangiocarcinoma: A Pilot Study (切除不能進行肝内胆管癌に対する塩酸ゲムシタビン併用肝動注化学療法: 予備的研究)			
学位論文の関連論文題目名 (題目名が英文の場合は、行を変えて和訳を括弧書きで記載する。) Systemic Gemcitabine Combined with Hepatic Arterial Infusion Chemotherapy with Cisplatin, 5-fluorouracil, and Isovorin for the Treatment of Advanced Intrahepatic Cholangiocarcinoma: A Pilot Study (切除不能進行肝内胆管癌に対する塩酸ゲムシタビン併用肝動注化学療法: 予備的研究) 掲載雑誌名 Hepato-Gastroenterology Vol.61 P.162-167 (2014年 掲載)			
(論文審査の要旨) 肝内胆管細胞癌 Intrahepatic cholangiocarcinoma (ICC)は、予後不良であり、通常進行癌として発見されることが多い。肝動注化学療法 Hepatic arterial infusion chemotherapy (HAIC)は進行肝細胞癌 Hepatocellular carcinoma (HCC)に対して有用であるが、ICC に対して肝動注化学療法を行った報告も散見される。今回、進行 ICC に対して塩酸ゲムシタビン全身投与を併用した HAIC(low dose FP+ I sovorin)の有用性を検討したので報告する。 対象は、進行 ICC と診断され、塩酸ゲムシタビン併用肝動注化学療法(low dose FP+ Isovorin)を施行した進行 ICC7 例。1 クール後の奏効率は 57.1%(部分奏功(PR)4 例、不変(SD)2 例、進行(PD)1 例)であった。累積生存率は 1 年、2 年がそれぞれ 85.7%、28.6%で、生存期間中央値(MST)は 22.3 ヶ月であった。副作用としては CTCAE Grade3、4 の白血球減少・好中球減少・血小板減少・貧血・食欲低下がそれぞれ 28.6%・28.6%・42.9%・14.3%・14.3%認めしたが、死亡に関連した重篤な有害事象は経験しなかった。 予備的研究ではあるが、切除不能進行 ICC に対して塩酸ゲムシタビン併用肝動注化学療法(low dose FP+isovorin)は、有用な治療法となりうると考えた。 本研究は、標準的な非切除治療が確立されていない肝内胆管癌の治療に対する有用性を示した論文である。よって、学位論文として価値あるものであると認められた。			

備考 審査の要旨は800字以内とすること。